少子化・未婚化対策と
「新たな時代と価値観に求められる出会い」の創出

「毎日メディアカフェ/毎日フォーラム」シンポジウム

株式会社エウレカ 代表取締役CEO 石橋 準也

2022年12月1日

※本リリースの情報および画像は発表当時のものです。掲載・引用をご希望の方は、弊社広報部(pr@eure.jp) までご連絡ください。

会社概要

会社名	株式会社エウレカ / Eureka, Inc. NASDAQ上場のMatch Groupの一員として事業を運営
設立	2008年11月20日
代表者	代表取締役CEO 石橋 準也
事業内容	恋活・婚活マッチングアプリ「Pairs」
資格	・インターネット異性紹介事業 届出済み 登録番号: 三田22-108105 ・インターネット型 結婚相手紹介サービス認証取得 〈認証番号 ：20 0005〉 認証団体：特定非営利活動法人 結婚相手紹介サービス業認証機構
加盟団体	一般社団法人 結婚・婚活応援プロジェクト（MSPJ） 一般社団法人 日本経済団体連合会 公益社団法人 日本広告審査機構（JARO） 在日米国商工会議所（ACCJ） 一般社団法人モバイル・コンテンツ・フォーラム（MCF） 一般社団法人新経済連盟（JANE） 一般社団法人シェアリングエコノミー協会（SEAJ） 公益社団法人 日本アドバタイザーズ協会（JAA）

※本リリースの情報および画像は発表当時のものです。掲載・引用をご希望の方は、弊社広報部(pr@eure.jp) までご連絡ください。

pairs

日本で最も使われている恋活・婚活マッチングアプリ

出典：MMD研究所「2022年マッチングサービス・アプリの利用実態調査」2022年9月時点）

自分らしく、自分のペースで恋活・恋愛ができる体験を提供することで交際相手探しのバリアを低めつつ、かけがえのない相手との出会いの機会を提供

- 真剣な交際・結婚を求める20代から30代が主な利用者
- 累計登録数2000万(※)のビッグデータをもとにした独自のアルゴリズム
- 業界最高水準の安心・安全対策

※2012年のサービス開始以来の累計登録数。2022年4月時点

※本リリースの情報および画像は発表当時のものです。掲載・引用をご希望の方は、弊社広報部(pr@eure.jp) までご連絡ください。

恋活・婚活マッチングアプリの成り立ちと発展

日本独自の動きとして
「出会い系サイト」
登場

→ 安全性の問題で
法規制強化により衰退

米国を中心に、
オンラインデーティング
サービスが普及拡大

Pairsはじめ、恋活・婚活
マッチングアプリ
各サービスのリリース

→ 米国等の成功例を継承して
発展したのが
マッチングアプリ

2000年代

携帯電話・
インターネットの普及

2012年～

スマホの普及、
アプリサービス開始

2015年～

（一社）結婚・婚活応援プロジェクト
（MSPJ）設立（2015年5 月）
業界自主基準策定（2018年2月）

2020年～

第三者認証（インターネット
型結婚相手紹介業認証）創設
（2020年7月）

※本リリースの情報および画像は発表当時のものです。掲載・引用をご希望の方は、弊社広報部(pr@eure.jp) までご連絡ください。

一般社団法人　結婚・婚活応援プロジェクト（MSPJ）の取り組み

- 2015年5月、結婚を希望される方同士の安心できる出会いの場を広げ、結婚へと導く仲人役として「一般社団法人 結婚・婚活応援プロジェクト」を設立（初代代表理事：増田寛也氏）
- 2022年6月より、恋活・婚活マッチングアプリを中心とする体制へ（共同代表理事としてエウレカが就任）

結婚・婚活の応援

「結婚・婚活メディアカンファレンス」の開催

増田寛也元総務大臣講演（2015年11月「結婚・婚活メディアカンファレンス」）

婚活・ブライダル振興議員連盟会長三原じゅん子議員ご挨拶（2021年12月「結婚・婚活メディアカンファレンス」）

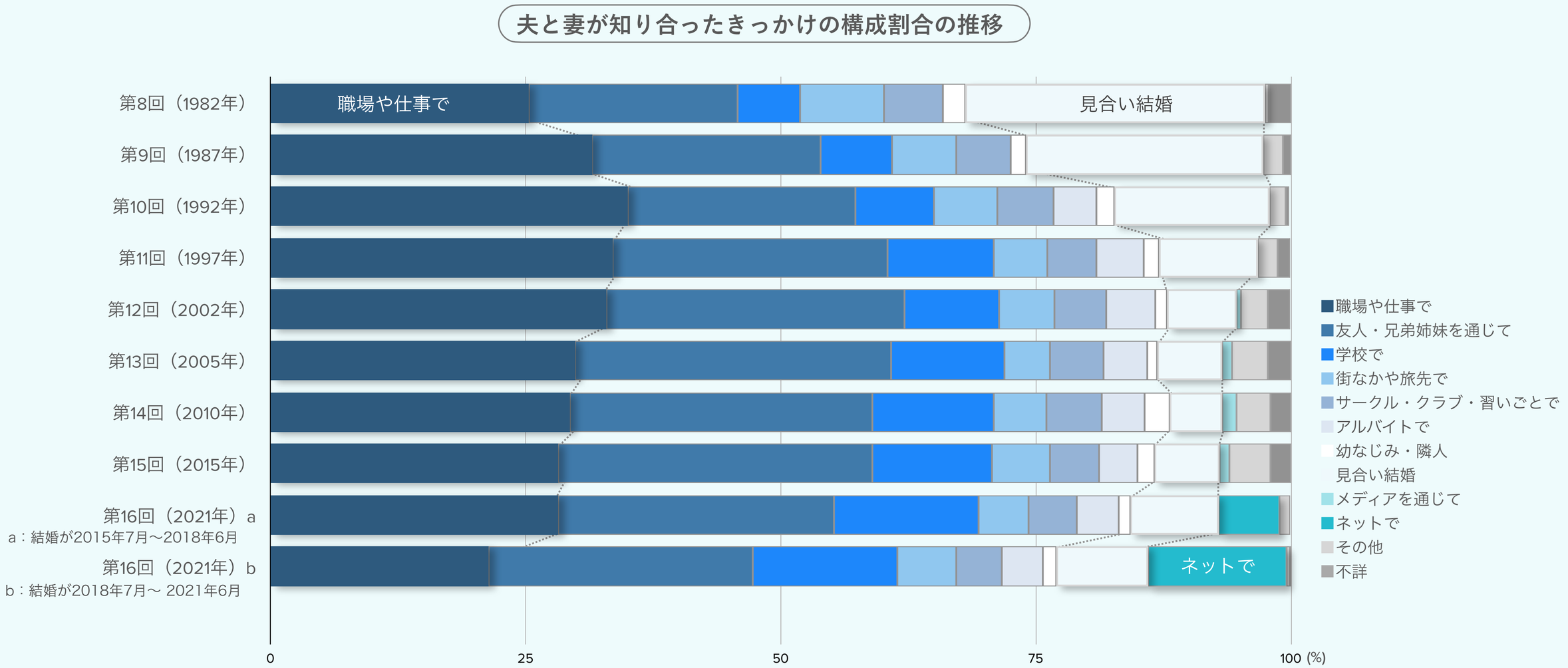
恋活・婚活マッチングアプリ業界の健全な発展

自主基準ガイドライン「MSPJ7つの約束」の策定
安心・安全ナレッジ共有ワーキンググループを開催

“フタリになる”を、応援する。
一般社団法人 結婚・婚活応援プロジェクト
MARRIAGE | SUPPORT | PROJECT

※本リリースの情報および画像は発表当時のものです。掲載・引用をご希望の方は、弊社広報部(pr@eure.jp) までご連絡ください。

マッチングアプリを含むインターネットでの出会いが増加している

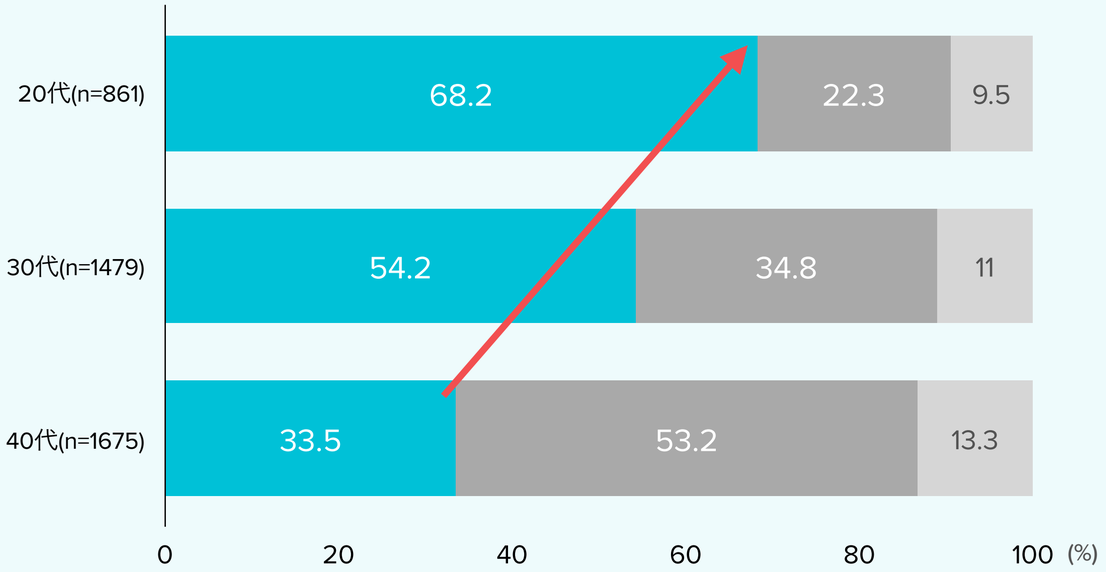


※出典：国立社会保障・人口問題研究所 「第 16 回出生動向基本調査　結果の概要」（2022）「図表 5-3 調査別にみた、夫と妻が知り合ったきっかけの構成割合（調査時点より過去5年間に結婚した初婚どうしの夫婦」（第16回は過去６年間の結婚）」をもとに株式会社エウレカ作成

※本リリースの情報および画像は発表当時のものです。掲載・引用をご希望の方は、弊社広報部(pr@eure.jp) までご連絡ください。

若い世代ほどマッチングアプリの認知度と利用度は高い

マッチングアプリの認知状況



（注）：本調査対象者を抽出するために実施した4,015名対象のスクリーニング調査の結果。
マッチングアプリについて説明を行った上で質問を行った。

■知っている
■名前を聞いたことがある程度
■知らない

マッチングアプリの利用状況

■現在利用している
■現在利用していないが、過去1年以内に利用したことがある
■現在利用していないが、過去3年以内に利用したことがある

※出典：「マッチングアプリ」に関する調査（株式会社マッチングアプリの専門家）

※本リリースの情報および画像は発表当時のものです。掲載・引用をご希望の方は、弊社広報部(pr@eure.jp) までご連絡ください。

少子化・未婚化に関する外部有識者との調査研究

共同調査

「日本の恋愛・結婚に関する全国意識調査（2019）」

調査主体
株式会社エウレカ
監修
中央大学文学部
山田昌弘教授

「日本の未婚化の要因に関する仮説検証調査（2020）」

調査主体
株式会社エウレカ
監修
天野馨南子氏
（ニッセイ基礎研究所生活研究部
人口動態シニアリサーチャー）

左記調査結果を書籍化
白秋社刊

「アフターコロナを見据えた少子化対策等のための未婚者の実態調査」（2021）

調査主体
株式会社日本総合研究所
協力
株式会社エウレカ

有識者会議

「少子化と未婚化の改善について考えるアドバイザリーボード」（2020年 / 2022年）

アドバイザリーボードメンバー

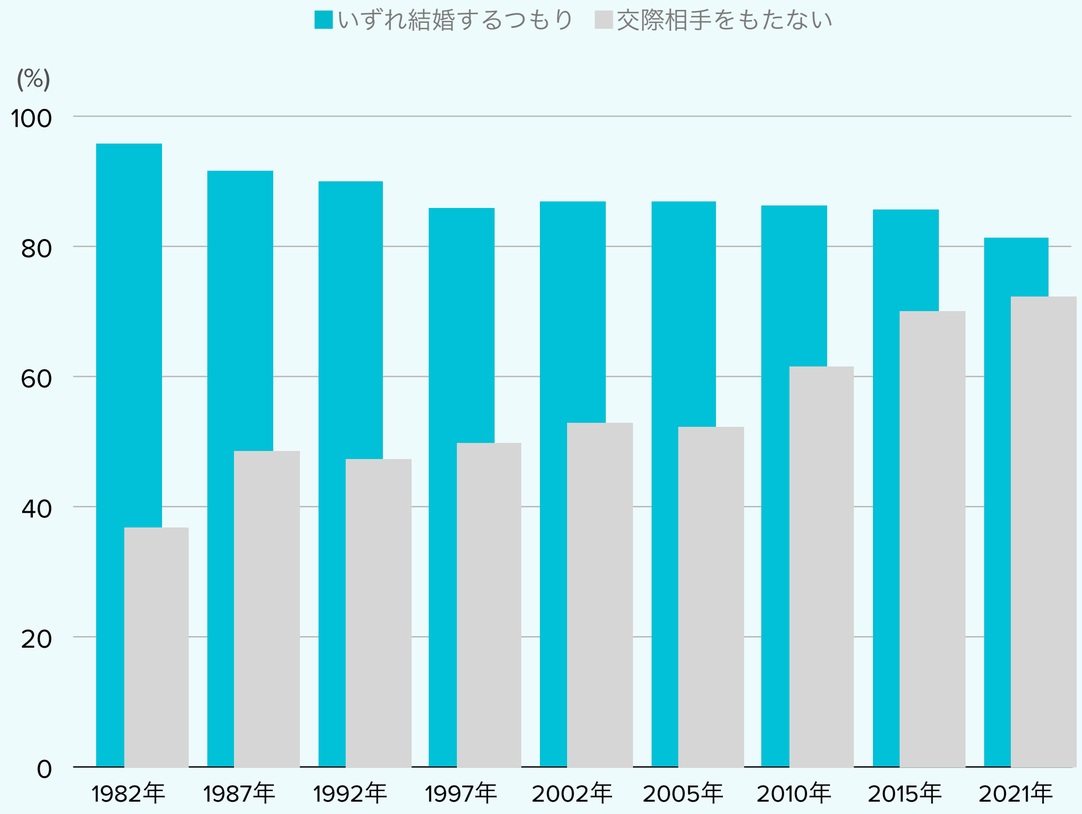
- 治部 れんげ氏（座長、ジャーナリスト、昭和女子大学現代ビジネス研究所研究員）
- 板本 洋子氏（NPO法人 全国地域結婚支援センター代表）
- 白河 桃子氏（昭和女子大学 客員教授・相模女子大学大学院 特任教授・ジャーナリスト）
- 藤本 耕平氏（若者研究マーケッター/東北芸術工科大学非常勤講師）
- 山田 昌弘氏（中央大学文学部教授）
- 青木 幸弘氏（学習院大学経済学部経営学科教授）
- 石山 アンジュ氏（一般社団法人Public Meets Innovation代表）
- 岡本 純子氏（株式会社グローコム代表取締役社長）
- 山口 慎太郎氏（東京大学経済学研究科・政策評価研究教育センター教授）

※本リリースの情報および画像は発表当時のものです。掲載・引用をご希望の方は、弊社広報部(pr@eure.jp) までご連絡ください。

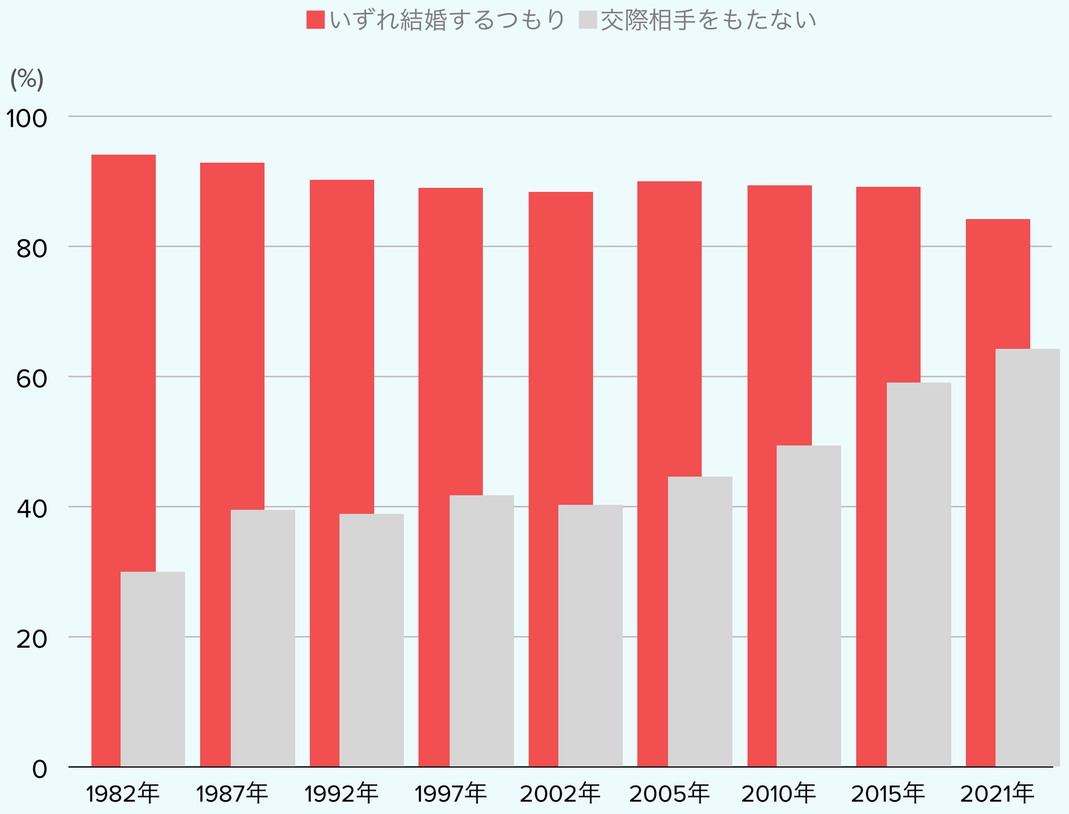
「出会い」の観点から見た少子化課題への取り組み

※本リリースの情報および画像は発表当時のものです。掲載・引用をご希望の方は、弊社広報部(pr@eure.jp) までご連絡ください。

結婚意思は依然高いものの交際相手を持たない人が増加



男性



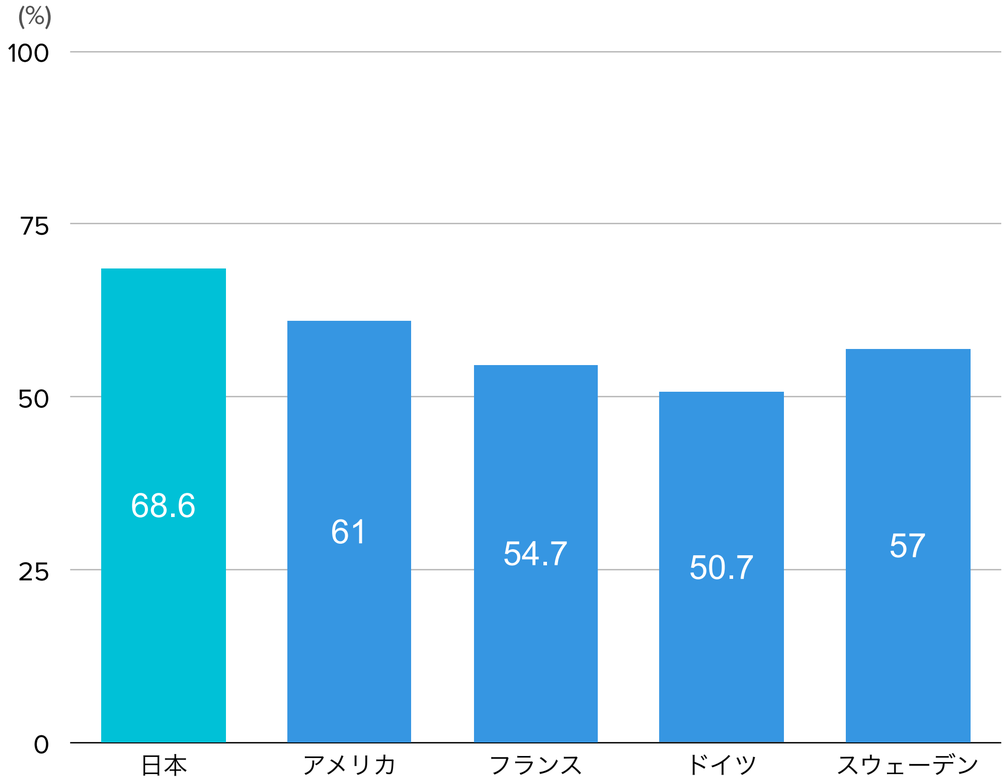
女性

※出典：①国立社会保障・人口問題研究所「第 16 回出生動向基本調査　結果の概要」（2022）「図表1-1 調査別にみた、未婚者の生涯の結婚意思」をもとに株式会社エウレカ作成 ○調査対象：18～34歳の未婚者 ○設問：自分の一生を通じて考えた場合、あなたの結婚に対するお考えは、次のうちどれですか。
②国立社会保障・人口問題研究所 「第 16 回出生動向基本調査　結果の概要」（2022）および「第8次出産力調査」（昭和57年）をもとに株式会社エウレカ作成 ◯タイトル：年齢別にみた、交際相手をもたない未婚者の割合と交際の希望 ◯対象者：18~34歳の未婚者 ◯設問：「あなたには現在、交際している異性がいますか」

※本リリースの情報および画像は発表当時のものです。掲載・引用をご希望の方は、弊社広報部(pr@eure.jp) までご連絡ください。

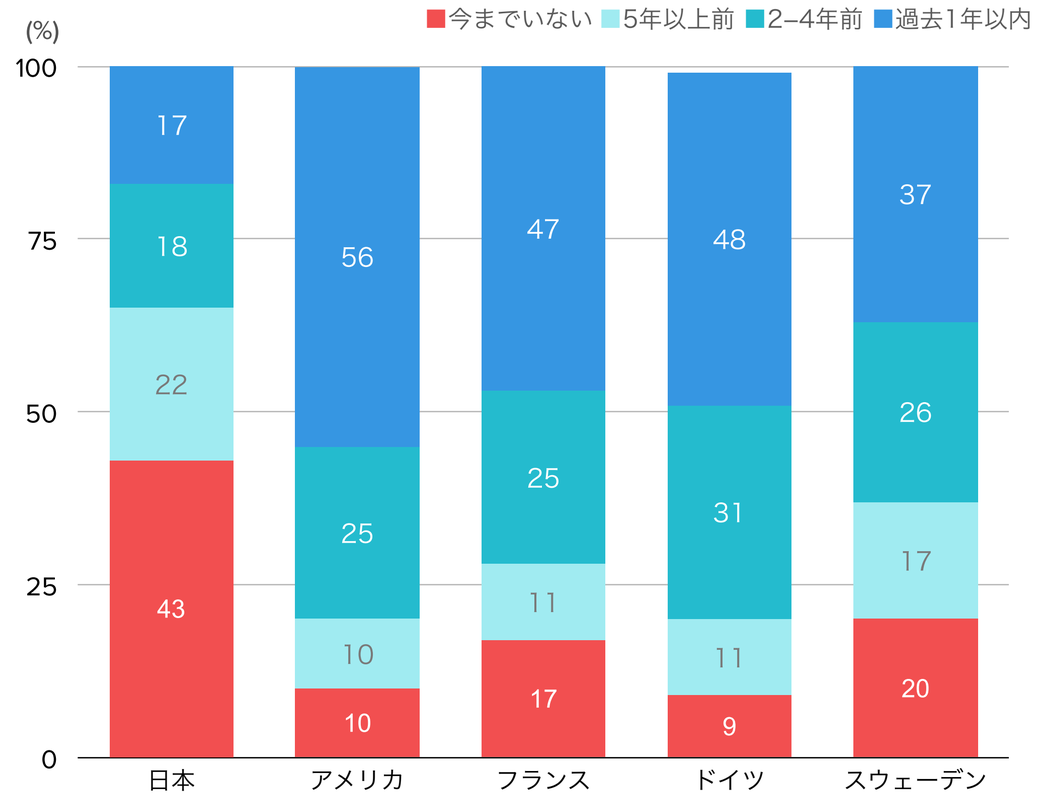
交際しない傾向が他国より顕著な日本

交際相手を持たない独身者比率（国際比較）



※出典：Match Group自社調べ（2022） ◯調査対象：18-34歳の男女 17,566人

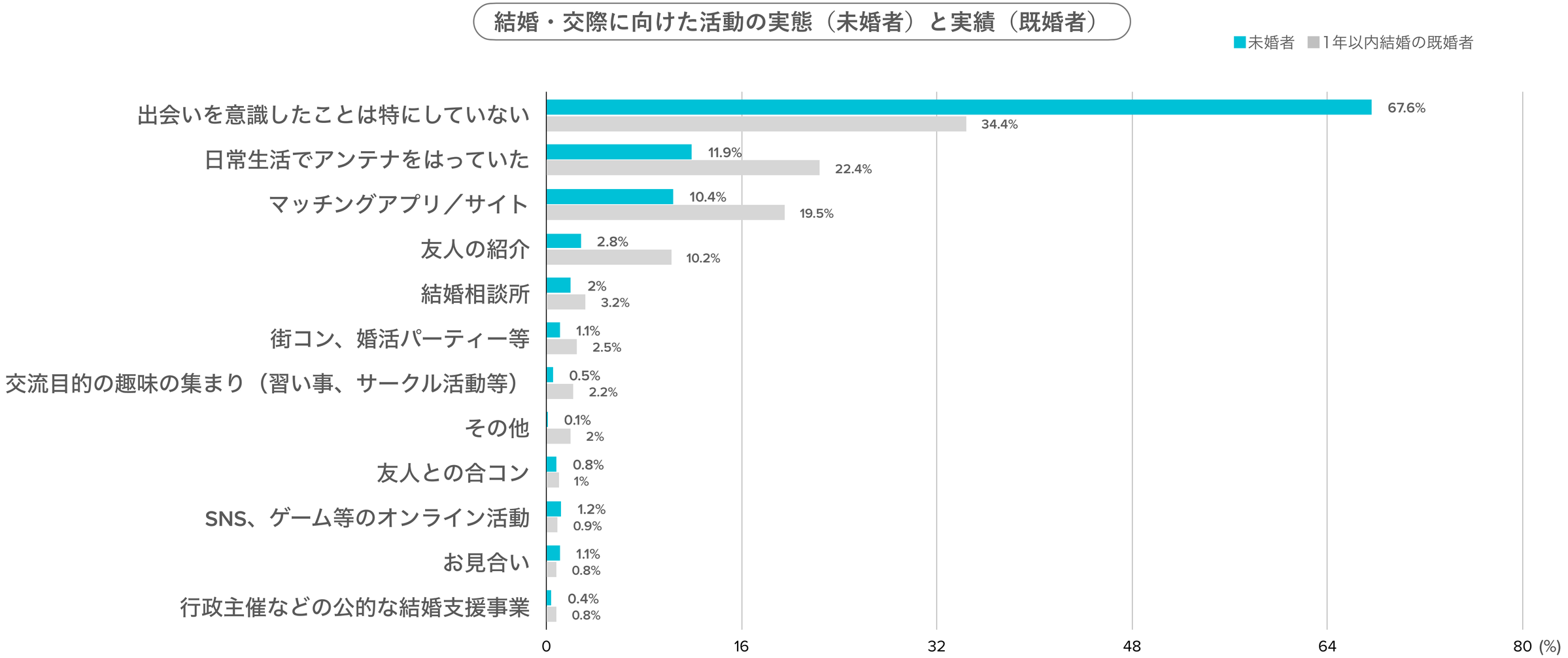
交際相手がいない期間（国際比較）



※出典：Match Group自社調べ（2022） ◯調査対象：18～39歳の男女　2,248人（日本）、986人（フランス）、847人（ドイツ）、414人（スウェーデン）、1,654人（アメリカ） ◯設問：最後に誰かと交際したのはいつ頃ですか

※本リリースの情報および画像は発表当時のものです。掲載・引用をご希望の方は、弊社広報部(pr@eure.jp) までご連絡ください。

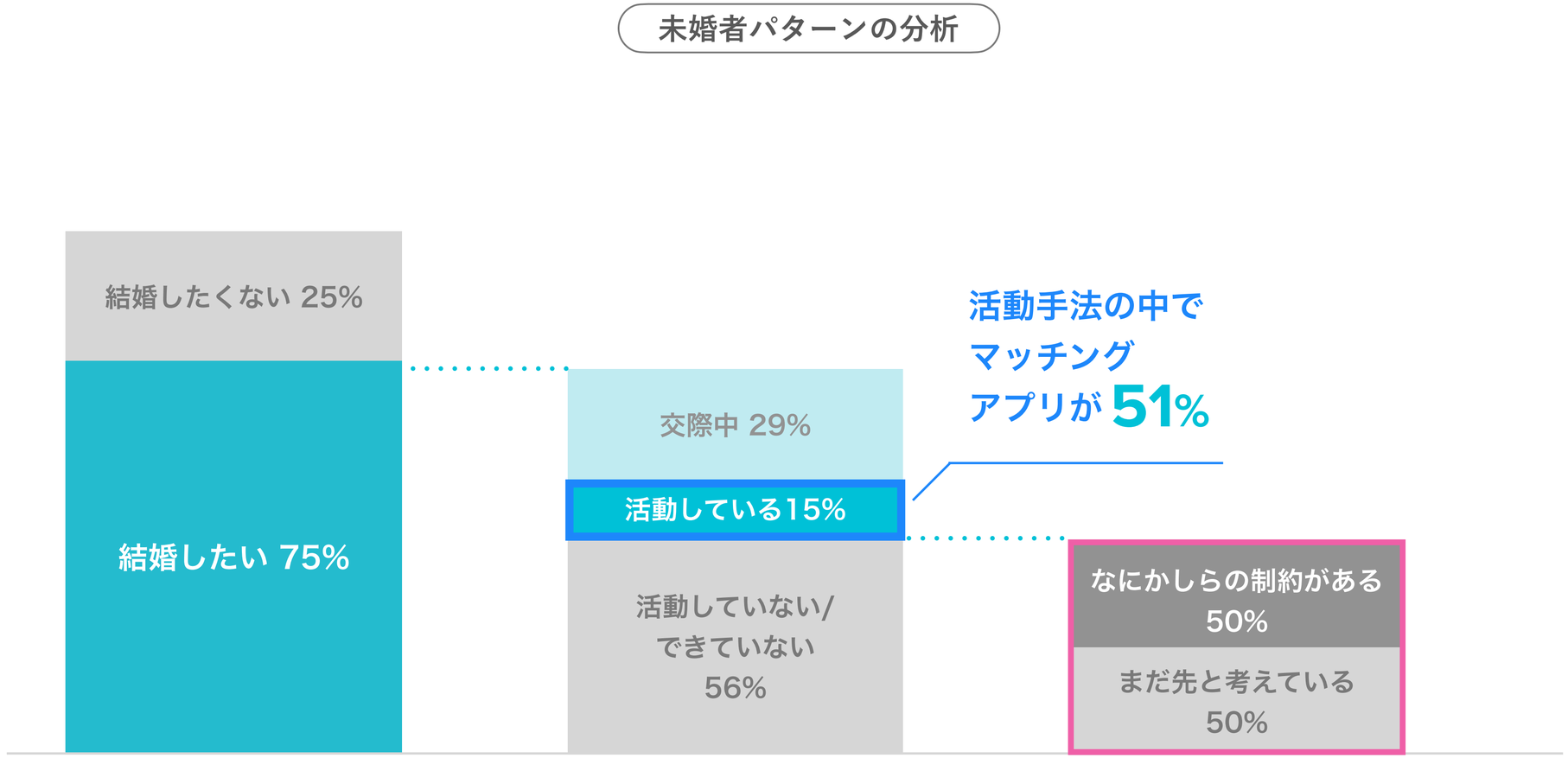
未婚者は結婚・交際に向けた活動を行なっていない傾向



※出典：株式会社日本総合研究所 リサーチ・コンサルティング部門・未来社会価値研究所 「アフターコロナを見据えた少子化対策等のための未婚者の実態調査」 ○調査協力:株式会社エウレカ ○調査対象：全国の未婚・既婚男女6,074人。 ○回答者ベース：20～39歳未婚男女1,181人(現在交際中を除く)、および1年以内結婚の20～39歳既婚男女225人。 ○実査期間：2021年6月15日～6月18日 ○設問：・結婚相手・交際相手を見つけるための目的で活動を行っていますか。行っている場合は、実施している活動を選択してください。・結婚前、結婚相手を見つけるための目的で活動を行っていましたか。行っていた場合は、実施していた活動を選択してください。（主な活動を一つ選択）

※本リリースの情報および画像は発表当時のものです。掲載・引用をご希望の方は、弊社広報部(pr@eure.jp) までご連絡ください。

「少ない”活動人口”」結婚したい未婚者の半数以上が活動していない



※出典：［調査元データ］株式会社エウレカ・株式会社日本総合研究所共同実施「アフターコロナを見据えた少子化対策等のための未婚者の実態調査」［分析・とりまとめ］株式会社エウレカ ◯調査対象：全国の未婚・既婚男女6,074人。◯回答者ベース：20～39歳の未婚男女2,082人。◯実査期間：2021年6月15日～6月18日 ◯設問：以下の設問に対する回答から分類・整理 ー あなたは、いつまでに結婚したいと思いますか。 ー 結婚したいとは思わない理由をお答えください。 ー これまでに、交際した経験はありますか。ある場合は、直近の交際時期もお答えください。 ー 現在、結婚相手・交際相手を見つけるための目的で活動を行っていますか。行っている場合は、実施している活動を選択してください。 ー 出会いを意識した積極的な活動をしていない理由をお答えください。 ー 婚活・恋活を通して、交際相手候補となりうる異性との出会いはありましたか。 ー 婚活・恋活の本気度を5段階評価でお答えください。 ー 交際相手候補となりうる異性に対して、積極的にアプローチできていますか。

※本リリースの情報および画像は発表当時のものです。掲載・引用をご希望の方は、弊社広報部(pr@eure.jp) までご連絡ください。

交際経験の低下で「どうしたらいいのかわからない」負のループ

交際相手が欲しいのに活動しない理由（MA）

1. どうしていいのか分からない

交際経験の低さが影響しているのか、
どうしたらいいのかわからないという回答が多い。
特に交際経験の無い男女に顕著。

2. 恋愛に対して受動的

現在の若者がリスクに対して敏感であることも
影響しているのか、恋愛に対して受動的である
ことが伺える回答が目立つ。

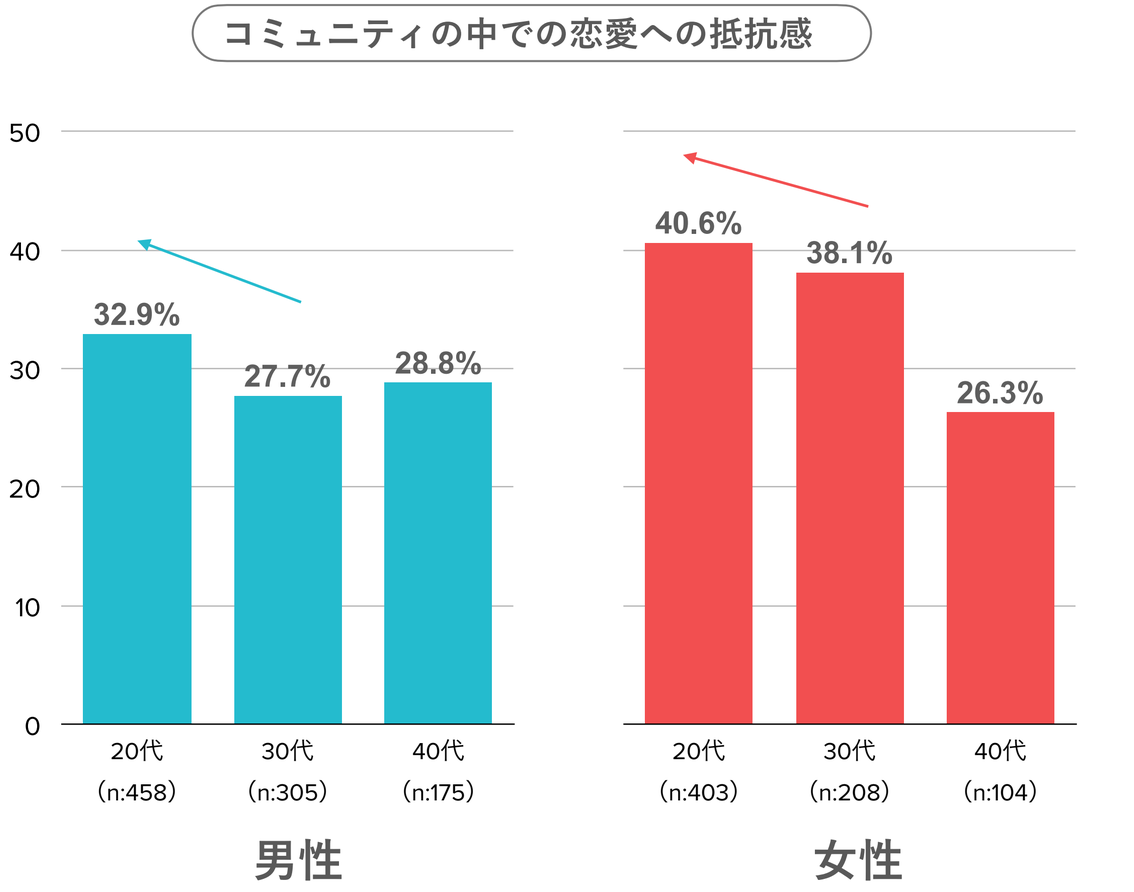
3. その他

仕事や趣味が忙しい、
経済的な理由などがあがった。

	20代〜30代男女 独身・交際経験 あり	20代〜30代男女 独身・交際経験 なし
どう活動したら良いかわからないから	31.4%	**42.8%**
活動することが面倒だから	26.3%	26.3%
活動を始めるきっかけがつかめないから	24.4%	**31.6%**
経済的な理由から	23.1%	28.3%
自分からアプローチできないから	20.5%	32.2%
活動などせずに、自然に会いたいから	20.3%	22.4%
異性とのコミュニケーションが苦手だから	17.5%	**30.3%**
仕事が忙しいから	13.5%	7.2%
相手が見つかっても交際の仕方がわからないから	12%	**24.3%**
フラれることが怖いから	12.2%	14.5%
趣味などが忙しいから	10.5%	10.5%
相手に合わせるのが辛いから	9.8%	11.2%

※本リリースの情報および画像は発表当時のものです。掲載・引用をご希望の方は、弊社広報部(pr@eure.jp) までご連絡ください。

強まるリスク回避傾向（身近なコミュニティでの出会いを避ける）



※出典：恋愛観調査2014（リクルートブライダル総研調べ）

「男女交際 － リスクがあると思っている」と思っている

男女交際におけるリスクの意識

1. 断られるリスク

自分に自信がなく、断られるリスクを回避する。

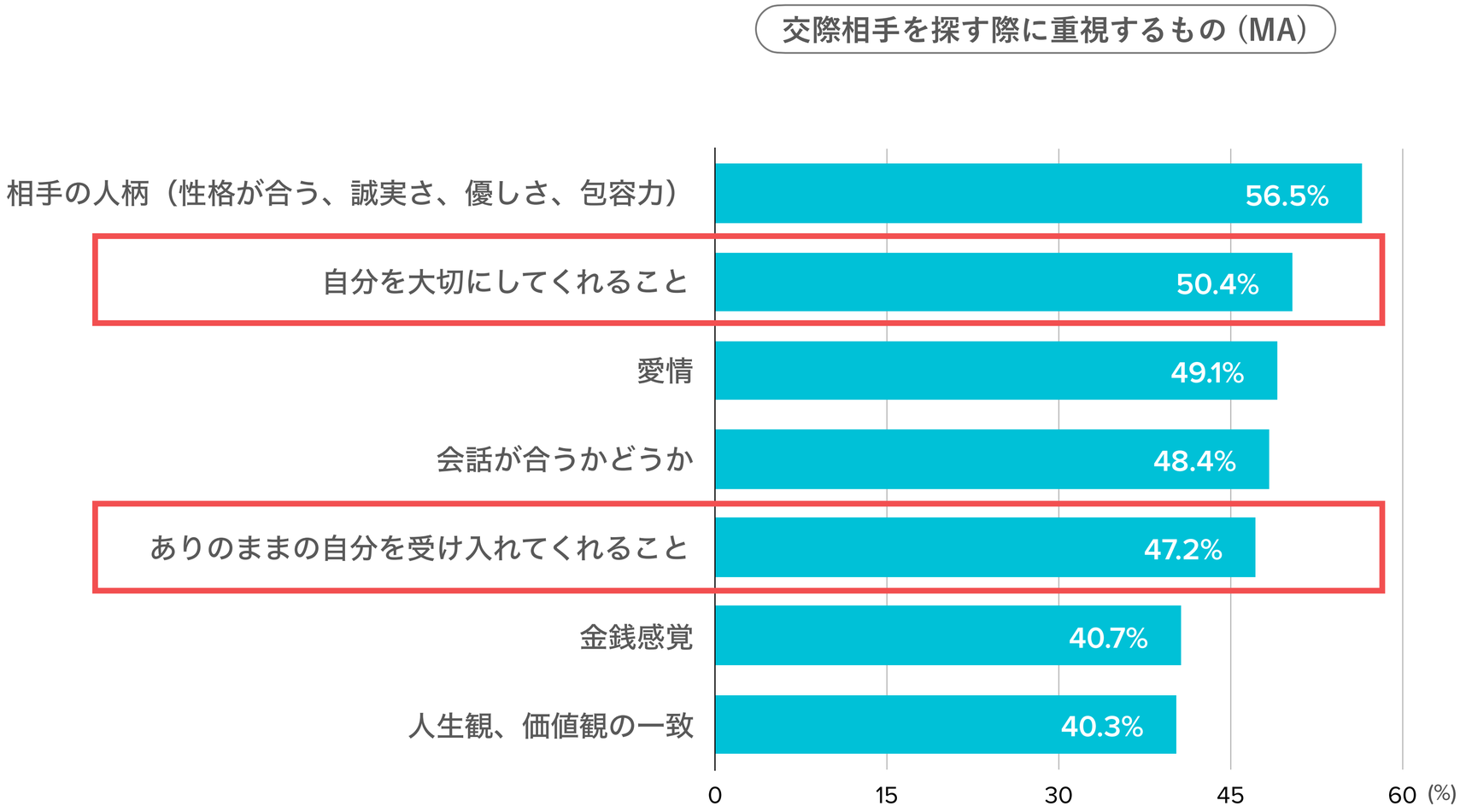
2. 合わない人と出会う、付き合うリスク

こんな人とは思わなかった。よくわからない人と付き合うのは怖いというリスクを回避する。

※出典： エウレカ主催セミナー「日本の恋愛・結婚とオンラインデーティング」（2019年11月）資料から 株式会社エウレカ「日本の恋愛と結婚に関する全国意識調査」（2019）◯監査監修：中央大学文学部 山田昌弘教授 調査対象：全国の20 代～60 代の既婚・独身（離別・死別含む）男女5,000人 ◯実査期間：2019 年 10 月 21 日～10 月 23 日 のデータからの分析

※本リリースの情報および画像は発表当時のものです。掲載・引用をご希望の方は、弊社広報部(pr@eure.jp) までご連絡ください。

価値観の多様化と型にはまりたくないという意識

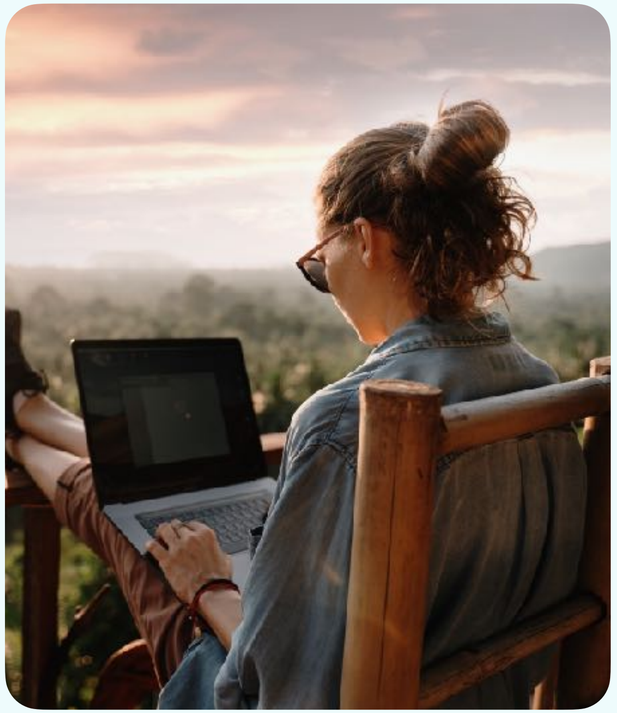


「価値観や期待値が多様化する中で、型にはまった恋愛や結婚は、自分らしくいられない、自分には難しいなどと感じて、敬遠される傾向がある」エウレカ 第二弾 少子化・未婚化の改善について考えるアドバイザリーボード（2021/10～2022/2）報告書から

※出典：株式会社エウレカ「日本の恋愛と結婚に関する全国意識調査」（2019）◯監査監修：中央大学文学部 山田昌弘教授 ◯調査対象：全国の20 代～60 代の既婚・独身（離別・死別含む）男女5,000人 ◯回答者ベース： 20~30代男女・独身・交際相手無し 568人 ◯実査期間：2019年10月21日～10月23日 ◯設問：交際相手を探す際に重視していることは何ですか

※本リリースの情報および画像は発表当時のものです。掲載・引用をご希望の方は、弊社広報部(pr@eure.jp) までご連絡ください。

１人でいるという選択肢がある社会環境



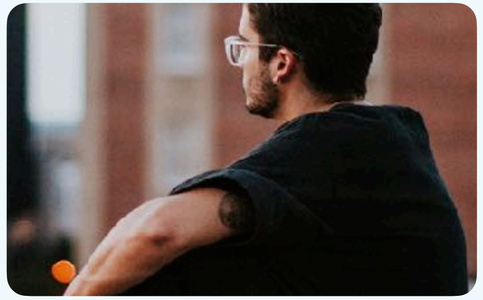
- ✓ 適齢期という社会的規範、結婚に関する家族や社会からのプレッシャー、伝統的ニーズが減少
- ✓ SNS等で常に人とつながっていられるため、寂しさへの感覚が希薄化
- ✓ 恋愛で得られるような高揚感を演出するサービス等が増え、恋愛欲求の分散が可能
- ✓ お一人様向け商品やサービスの普及でシングル生活が自由で快適に

「エウレカ 第二弾 少子化・未婚化の改善について考える
アドバイザリーボード」(2021/10～2022/2）報告書から

※本リリースの情報および画像は発表当時のものです。掲載・引用をご希望の方は、弊社広報部(pr@eure.jp) までご連絡ください。

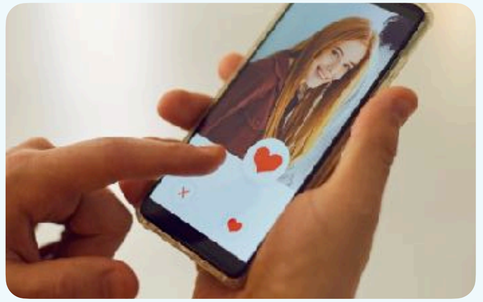
４つの課題に対して何ができるかを考える必要性

1 交際経験の低下で「どうしたらいいのかわからない」負のループ



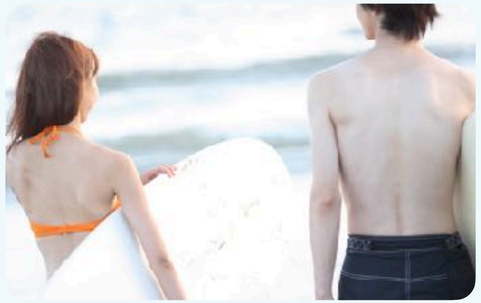
オンラインで用意されたフローに沿って始められるためコミュニケーションのハードルを下げる

2 強まるリスク回避傾向（身近なコミュニティでの出会いを避けたい）



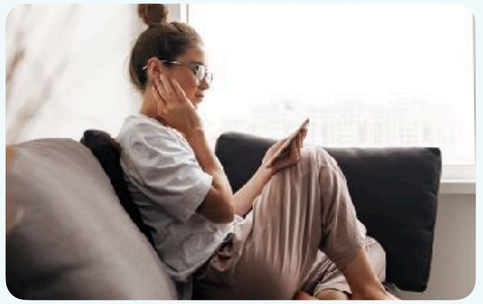
日常では出会わないような人と出会うことができる

3 価値観の多様化と型にハマりたくないという意識



多様な価値観で自分にあう人を探せる

4 一人でいるというという選択肢がある（課題が多いならむしろ一人でいい）



多様なモデルケースを示すことで、1人より2人の良さを伝えることができる

※本リリースの情報および画像は発表当時のものです。掲載・引用をご希望の方は、弊社広報部(pr@eure.jp) までご連絡ください。

“活動人口”を増やす

それが少子化・未婚化におけるマッチングアプリの更なる可能性

交際相手探しを
する人が増える

交際する人が
増える

結婚する人が
増える

子供を持つ人が
増える

交際相手探しのためにまずは一歩踏み出す「活動」する人が増えること

※本リリースの情報および画像は発表当時のものです。掲載・引用をご希望の方は、弊社広報部(pr@eure.jp) までご連絡ください。

ご静聴ありがとうございました

pairs

※本リリースの情報および画像は発表当時のものです。掲載・引用をご希望の方は、弊社広報部(pr@eure.jp) までご連絡ください。